

第2回町田市公共施設再編計画策定検討委員会 議事要旨

日時 : 2017年1月17日(火) 15時~17時

場所 : 町田市役所 2-1会議室

出席者: 委員長 市川宏雄氏
副委員長 山重慎二氏
委員 神山和美氏
前島正光氏
岩崎俊男氏
大塚信彰氏
小林祐士氏(欠席)
通地康弘氏
大倉博志氏
増山正子氏
吉田 努氏(欠席)

1. 事務局連絡事項

- ・ 委員挨拶
- ・ 傍聴者1名、録音、議事要旨を公開する旨の説明
- ・ 当日配布資料の確認 次第の修正、まちだニューパラダイム、アンケート調査、2か年のスケジュール案、前回の議事要旨

2. 事務局より、議事①前回の振り返り、②再編に取り組むにあたっての考え方、③再編にあたってのサービス機能と建物についての考え方について説明

3. 議論

委員長:

- ・ 施設の老朽化と財政の逼迫からスタートしている課題であるが、どうすればこの中でサービスの提供をしていくか、複合化や新しい考え方でのサービス提供が議論となる。そうした中で4つの視点から各施設について整理している。

副委員長：

- ・ 事例の紹介があったがいずれも行政が直接関わっていない、公共施設ではないものだったが、市ではそれらを公共施設でやっていきたいという思いであるのか。実際に行政主導でやると難しいことが多い。どちらかという賑わいのない中心から離れた地域の施設を見直さないといけない中で、明るいイメージがなかなか思い描けないところもある。縮小・廃止という点から魅力的な施設を考えた場合、紹介された事例のような方向ではないような気がする。具体的に考えると違和感があるので事例の位置付けを教えてください。

事務局：

- ・ 前回、学校の複合化例について委員長より説明があった。保育園や高齢者施設など今実際にある事例を説明することもできるが、これから公共施設の再編を考える上で明るいイメージを示した。
- ・ 例えば、廃校の活用という暗いイメージを持たれることがあるが、公共施設の事例ではないが、古い建物でも魅力的な施設をつくることも可能である、その効果が町に広がっていくという例として紹介した。
- ・ 商店街の例も直接的に公共が所有・管理する施設ではないが、小さな地方都市の将来のまちづくりで「場」のあり方を考えるというキーパーソンの考えは公共施設の再編でも共通であるということでイメージを広げるため事例を示した。

副委員長：

- ・ 中心から離れたところに人が集まれる空間をつくれるのかは疑問がある。地に足が付いた例を紹介した方がよいかもわからない。

委員長：

- ・ ポテンシャルがあるが使い方が悪いので変えるケースと、一方でポテンシャルが無くなっているところをどうするかというケースがある。後者は施設や機能を廃止してしまう場合が多いので事例があまりない。

委員：

- ・ 総論として考え方はわかりやすいが、ただし現実的ではない。

- ・ 行政の対象である 0 歳から高齢者までを一括りに考えるのは基本的に無理な話である。たとえば小学校までの幼児期、中学校、社会人といった括り。
- ・ 公共施設といってもいろいろあるので、例えば小学校・中学校にはつきりとターゲットを絞って、小学校・中学校のあり方をどうあるべきか、それに伴って公共施設をどう再編していくか、建物のハード的なものは技術的に解決する話であるので、ソフト的にどのような立ち位置で考えたらよいか、再編するとしたらどういったものが創造されるかという考え方がわかりやすいのではないか。
- ・ 具体的に資料を見ると小・中学校にお金がかかるので、小学校を中心としてそれに付随する年代層の集まり、中学校を核としたときの年代層の集まり、それから外れる 30 代からリタイアまでの社会人を中心とした住民層、ニーズはこの 3 つで大きく分けると考えやすいのではないかと考えている。
- ・ ただしそれには色々なハードルがある。1 つはそれを乗り越えられるか。小・中学校を触るとなると、教育の、いわゆる聖域に踏み込むことになるが、教育論に関してはできた環境の中で考えればいいと考える。それが行政にできるのか。
- ・ もう 1 つは、複合化していくことは市内の各部署を縦割りでなく横割りで考えていく必要がある。個人的に伺ったところなんとなく抵抗があるようだ。国や都との連携も必要となる。
- ・ もう 1 つは、学校のあり方が大きく変わるので、それに対する住民の意識はどう変えられるのか。先生や教育関係者の考え方を変えられるかどうか。
- ・ 最後に、複合化についての考え方はわかりやすいが、町田市は細長いので特に地域差がある。地域特性、地域ニーズを汲みながら複合化を実現していけるか。これらのいくつかのハードルをどう乗り越えるかといった点が前提で議論がはじまると思う。

委員長：

- ・ 意見は全部に関わってくることであり、はじめにハードルと言ってしまうと無理だろうという話になってしまうので、その前にどういう方法があるか、何ができるかを議論したい。

委員：

- ・ 少なくともここにいるメンバーでは今言ったようなハードルは越えられるという意識のもとで検討する必要があるのではないか。

委員長：

- ・ ハードルはあるが、まず市民に示して意見をもらったうえでハードルを確認すればよい。どのように新しい施設をつくるかといった議論の場であり、それは後の段階である。

委員：

- ・ こういったことを共有できるかは大前提であると思う。踏み込んだ議論がわかりやすくなるのではないか。

委員長：

- ・ 色々な意見はあるのでそれを最初から共有することは難しい。課題があるのは学校だけではない。それは全ての分野に関わってくるので、その議論をしていると1年かかってしまう。

委員：

- ・ 1年はかかると思っている。議論を具体的にするにはどうすればよいか。

委員長：

- ・ 延々と課題について議論して結論が出なかった前例が多くある。できることを検討したい。何を乗り越えないといけないかは意見を聞かないとわからない。

委員：

- ・ 小学校・中学校だけでなく色々な議論がある。公共施設が担うべきものは何かをしっかりと考えて、色々な意見を出していくことが大事ではないか。

委員長：

- ・ どちらにしても今後、市民理解という大きなステージが待っている。

委員：

- ・ 都市計画、都市づくり部や政策経営部等で議論すると理想のまちづくりの話が出てくるが、建設部や教育委員会などの現場の人と議論すると、同じ公務員でも考え方が異なっている。徴税・教育といった公共が担うべきものもあるが、財政に余裕があった頃に充実させてきたサービスが結果として財政を圧迫している。これから真に必要なサービスについて議論を市民と一緒にやってできるのか。

委員長：

- ・ 施設の新しいあり方を方向性として出す場である。当然反発はある。反対があるからと言っていると議論は進まない。意識改革は職員も市民も必要である。

委員：

- ・ 委員の方の意識の持ち方にバラつきがあると感じる。このままでは議論にならない。この場で議論することをもう少し整理をしていかないといけない。行政はサービスや機能どこまで絞り込んでいくのか、民間はどこまで協力できるのか。色々なことを総合的に議論していくべきである。枝葉の議論をしていても仕方がない。

委員長：

- ・ 正論であるが限られた時間でできることは限られる。今やっていることは切迫していて、財政逼迫、老朽化の中でやらないといけない。どうあっても財政には限界があり人口も減るので行政サービスは減ることになる。当然色々な意見があり合意は難しいと考えている。何ができるかを出していく場である。反対する市民や関係者がいたとしても、理がかなっていれば納得せざるを得ない。

委員：

- ・ 先ほど事例紹介があったが、公共施設のIT化といった事例はあるのか。

委員長：

- ・ そのような事例は多くあるので今後示していきたい。

4. 事務局より、④機能毎の今後の方向性（案）について説明

委員長：

- ・ 複合化・多機能化等を取り入れこのような案をつくっている。全ての施設に色々な関係者がいて色々な意見がある。次回は具体的に意見を頂きたい。そもそも公共施設をどうしていくかという視点に立って議論をしたい。
- ・ 本来は施設をどうするかではなく、サービスをどうするかが重要である。市民に出すときは市民に考えてもらうためのわかりやすい資料としていかなければならない。
- ・ 今後、市民意見募集のスケジュールがあるが、もう少し遅くなった方がよい。委員会の中で、これを出してみようかという合意はとりたい。

委員：

- ・ 4つの視点と今後の方向性との考え方がよくわからない。指定管理者が導入されている施設がいくつかあるが、すでに官民連携を導入している施設であることがわかるような資料の方がありがたい。

委員長：

- ・ 4つの視点が重要である。もう少し時間をかけて固めていきたい。

委員：

- ・ 前回話に出た学校の給食室など機能の整理はどうなっているか。

事務局：

現在、調査中である。

委員：

- ・ 4月は早いかもしれないがどのようにアウトプットを出していくのか。それにより議論は変わってくる。

事務局：

- ・ 26 の機能別の方向性を出すことを考えている。

委員長：

- ・ 1 機能だけ出すとかそういったことも考える必要がある。最初からあまり細かいことは出すべきではない。

委員：

- ・ 厳しいスケジュールかと思う。

委員長：

- ・ これからの議論の展開によるが、次回は議論の時間に余裕を持ちたいと思う。

事務局：

次回の日程は 2 月 16 日午前 10 時から 3 階にて (閉会)